

ベンタゾン剤による大豆生育期の広葉雑草防除

福島県農業試験場 種芸部・会津地域研究支場
平成7年度畑作関係除草剤試験成績書
平成15年度畑作関係除草剤試験成績書
平成16年度農業試験場試験成績概要
分類コード 02-05-20000000

部門名 普通畑作物—大豆—雑草防除
担当者 丹治克男・二瓶直登・宗村洋一

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) ベンタゾンナトリウム塩液剤(以下ベンタゾン剤)は、大豆生育期間中に発生する広葉雑草に対する除草効果が高い(図1)。
- (2) ベンタゾン剤は、大豆2葉期～開花前までに10a当たり薬剤100～150mlを水100ℓに希釈して散布する。
- (3) ベンタゾン剤の施用により一時的に褐点等の薬害症状が見られるが、回復は早く、生育・収量には影響が見られない(図2、3、表1)。

2 期待される効果

- (1) 大豆生育期における広葉雑草の防除が可能となり、大豆栽培の効率化が図られる。
- (2) 大豆の生育期に広葉雑草の防除が可能となることで、大豆の収量・品質向上が図られる。

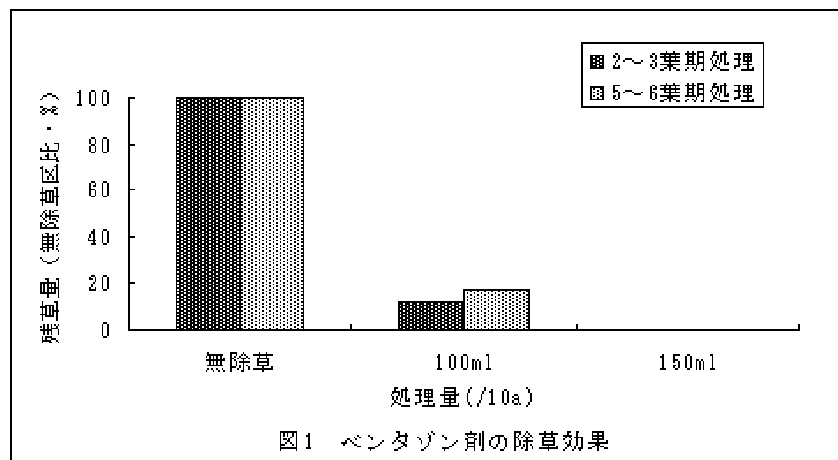
3 適用範囲

県内の大豆生産地のうち広葉雑草が多発するほ場

4 普及上の留意点

- (1) 大豆に登録のあるベンタゾン剤は、平成17年4月6日付けで新規登録された「大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩)」のみである。
- (2) 薬害症状及び薬害の回復は品種により異なり、減収となる場合もあるので、表1の薬害が中程度以上見られる品種では使用を避けること。また、表1以外の品種では、事前に使用品種における薬害程度を十分確認してから使用すること。
- (3) イネ科雑草に対する効果はないので、イネ科雑草に効果のある土壌処理剤との体系で使用する。

II 具体的データ等



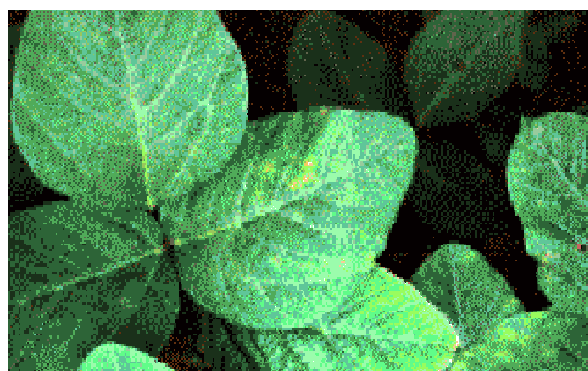
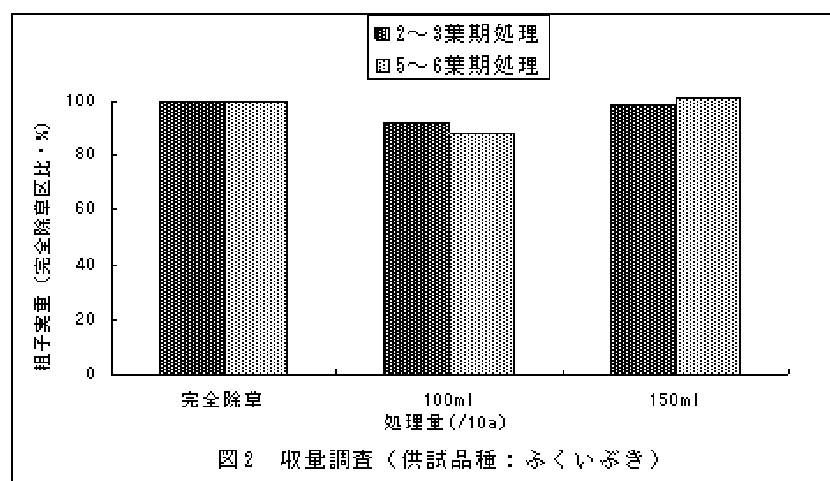


図3 薬害の状況 (褐斑)

表1 主な品種と薬害程度		
	品種名	薬害程度
奨励品種	ふくいびき	極微～微
	おおすず	極微
	スズユタカ	極微
	タチナガハ	極微～微
	コスズ	極微～微
その他の品種	エンレイ	極微～微
	リュウホウ	極微～微
薬害が中程度見られる品種	ゆめみのり	微～中
	タチユタカ	中
	納豆小粒	中

Ⅲ その他

1 執筆者

丹治克男、佐藤 誠

2 主な参考文献・資料

- (1) 平成7年度 夏作関係除草剤・作用性・適用性判定試験成績総合要録(畑作編)、日本植物調節剤研究協会
- (2) 平成15年度 畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績概要、日本植物調節剤研究協会